

令和4年度 第2回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和4年5月9日(月)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後4時10分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 港 耕作
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開 会
定刻、定足数に達しており、令和4年度第2回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第1回定例会会議録の承認について承認
- 3 議 事
報告第12号 垂水市奨学資金奨学生選考委員の委嘱について
報告第13号 令和4年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について
報告第14号 令和4年度垂水市地区公民館館長及び主事の任命について
議案第11号 令和4年度垂水市奨学資金奨学生の決定について
議案第12号 令和4年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について
議案第13号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について
議案第14号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第12号 垂水市奨学資金奨学生選考委員の委嘱について	垂水市奨学資金奨学生選考委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第13号 令和4年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について	令和4年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
報告第14号 令和4年度垂水市地区公民館館長及び主事の任命について	令和4年度垂水市地区公民館館長及び主事の任命について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。	特記事項なし	
議案第11号 令和4年度垂水市奨学資金奨学生の決定について	令和4年度垂水市奨学資金奨学生の決定について、教育委員会に議決を求めるものである。	特記事項なし	
議案第12号 令和4年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について	令和4年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について、教育委員会の議決を求めるものである。	特記事項なし	
議案第13号			

<p>垂水市教育支援委員会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市教育支援委員会委員の委嘱について、教育委員会の議決を求めるものである。</p>	<p>特記事項 垂水市教育支援委員会名簿中、所属（職名）欄の6行目～8行目の市福祉課を市保健課に訂正し、9行目の市保健課を市福祉課に訂正し、委員名欄9行目の湊を港に訂正する。</p>	
<p>議案第14号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、教育委員会の議決を求めるものである。</p>	<p>特記事項 垂水市特別支援連携協議会名簿中、所属（職名）欄の9行目の市保健課を市福祉課に訂正し、委員名欄9行目の湊を港に訂正し、一番左欄13を11に訂正する。</p>	

議 事 内 容 等

<p>3 議 事 学校教育課長</p>	<p>報告第12号 垂水市奨学資金奨学生選考委員の委嘱について 垂水市奨学資金奨学生選考委員を委嘱したことについて報告するものである旨、及びその内容（各地区の民生委員6人、小・中・高の校長先生3人）について説明。 関連があるということで、議案第11号についても説明。 (質疑なし)</p>
	<p>議案第11号 令和4年度垂水市奨学資金奨学生の決定について (非公開)</p>
<p>社会教育課長 田之上委員</p>	<p>報告第13号 令和4年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について 令和4年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。 年齢的なバランスは取れているのか。</p>

社会教育課長	何歳までを若いと言うのか分からないが、結構年配の方から若い方までいるので、今バランスは取れていると思う。
	報告第14号 令和4年度垂水市地区公民館館長及び主事の任命について
社会教育課長	令和4年度垂水市地区公民館館長・主事を教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告。併せて境地区と協和地区の館長が未定である旨も報告。
教育長	水之上公民館の場合は、スムーズに交替ができたようであるが。
田原委員	二人いっぺんの交替となったが、後任によい人がいるときにぱっと代わらないとなかなか交替はできない。上手くいった方だと思う
教育長	境地区・協和地区の見通しは。
社会教育課長	境地区の運営委員会に参加させていただいた。まだ、館長ではないが、このような会合の時に、司会進行をしていただける人は決まった。その人が館長になってくれたら問題はないのだが。協和地区は自分の方で2～3人候補者を絞っているの、また当たってみる。
葛迫委員	館長職は会計年度任用職員か。毎日公民館に行くのか。
社会教育課長	今年度から週2日勤務の会計年度任用職員となった。これまで館長職は公民館に出て行かなくてもよかったが、今年度から週2日、午前9時から午後4時まで公民館に来てもらわなければいけないので、その辺も館長が決まらない理由の一つではないかと思っている。
葛迫委員	今年から市議会議員は館長になれなくなったのか。
社会教育課長	そのとおりである。
葛迫委員	去年までは館長代理だったが、今年からは館長か。
社会教育課長	昨年度までは館長代理（館長は社会教育課長）だったが、今年度からは会計年度任用職員という立場で館長となった。
教育長	終原地区は、これまでの主事さんが館長に上がられ、新たな人が主事さんになられ、理想的な交替だった。
田原委員	これまで、館長の仕事というものが確立していなかったの、現在何処の地区も模索中である。主事さんの仕事のどの部分をやってもらうかというところを色々取り組んでおられるようである。

教育長	その辺は社会教育課長が整理したのでは。
国体推進課長	地区毎に仕事の業務量の違いがあり、午前9時から午後4時まで週2日勤務という時間的制限もあるので、その地区ごとに色々議論して進めていただければと思っている。また、土日にイベントがあった場合は、振替ということになっているので融通が効くのかなと思っている。
教育長	それぞれの地区公民館の地域性もある。
田原委員	やっていくうちに、館長の仕事が固定されていくと思うが。
社会教育課長	今年度からなので、色々試行錯誤しながら方向を模索していただければと思っている。
	議案第12号 令和4年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について (非公開)
	議案第13号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について (非公開)
	議案第14号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について (非公開)
4 その他	
教育総務課長	4月の定例会における報告案件(報告第7号)について、改正せずに残っている様式の理由等について説明。また、元号などの軽微な修正については、4月定例会終了後、速やかに対応できた旨を説明。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	4月27日(木)に県市町村教育委員会連絡協議会の第1回幹事会があったので参加した。県内4ブロック10地区に分かれており、教育長・教育長

職務代理者が10人参加していた。

これまでの活動報告では、令和3年度はコロナ禍のために総会が書面開催になったことや令和4年度の全国市町村教育委員会連絡会での被表彰該当者が18人いて、肝属地区では鹿屋市の風呂井敬氏が31年2月、肝属町の藤元民子氏が11年6月、錦江町の川越俊作氏が8年1月ということで該当者となっているということであった。

4年度の役員選出では、会長は固定であるが鹿児島市の原之園哲也教育長、副会長4人は輪番制で今年は日置市・始良市・曾於市・奄美市となった。令和3年度は大隅ブロックの肝属地区で垂水市の私が副会長になっていたが、総会が開催されなかったので、協議の議長役も回ってこなかった。副会長は1年交替なのでしばらく本市は何も役が回ってこないだろう。

昨年度の第2回の幹事会では各地区の情報交換の場があったので、坂元教育長と垂水市の宣伝は何にするかを前もって打ち合わせをしていたが、今年はそれも無く結局、会議は30分で終了し少し残念ではあったが、次回に取っておこうと思うことだった。

葛迫委員

「公民館講座について」

新城地区の公民館講座では昨年度12講座から、本年度は大正琴やグラウンドゴルフなどが休講になり9講座へと活動講座が減ってきた。原因としては、現在70歳ぐらいまで働くようになったことで趣味の方に足が向かない感じなのか。もう一つは講師の高齢化もあり、なかなか公民館講座が続いていかないのではないかと思うことである。そんな中で、本年度から絵画教室を新城地区で開催できないかと申し入れたところ、安藤館長と市野主事さんには喜んで引き受けてもらった。5人ぐらい集まったらやりましようと言って募集したところ、10人の参加希望があり、早速5月16日(月)の午後から開講しようとしている。講師には、地元の新城地区の人がよいと思い、私のアトリエで30年ほど一緒に勉強されている新城地区にお住まいの「瀬戸口さん」という人をお願いしている。内容は、あまり難しく考えるとなかなか続かないので、幼児に返って思うがままに描いて、失敗してもいいやという気持ちで楽しく絵を描いていこうという講座です。今後も地区公民館講座で、このような「絵画講座」が開講できればと思っている。中央地区の生涯学習に来られない方などを中心にした公民館講座の力になればと考えている。

「山下清と北迫正治の世界について」

4月2日から始まった「山下清と北迫正治の世界」が5月8日に最終日を迎えた。市内外の多くの方々が垂水市にわざわざ立ち寄られ観覧されたことは、よく考えると「今の混沌とした時代に少しの安らぎを求めているのかな。」と感ずることだった。鹿児島市、鹿屋市、霧島市といった近隣市町から来られた人の名前が記載があり、多くの方が観覧されていたようだ。アンケートの中には次のような文章が多く寄せられていた。「元気をもらった。」「感動した。」「清が垂水を訪れていたことを初めて知った。」「指宿市から来られた男性は、「フェリーで来て正解。歩いて正解。」と書かれていた。また、南九州市から来られた男性は、「北迫さんと一緒にラ

グビーをしていた者です。闘病生活の中に誠実な生き方が素晴らしい。」と書かれていた。今回の展覧会については、図書館創立 30 周年特別企画展という節目を記念した展覧会だったが、従来の美術館という箱物で展覧会をするのではなく、図書館で展覧会を開催したことは評価に値すると思っている。美術館を持たない市町村でも展覧会は開催できるぞ。「山下清と北迫正治展」を開催し無事終了した垂水市立図書館にエールを贈りたい。

田之上委員

「子どもの SOS 受け止め方講演会について」

4月24日に、～心の引き出しが少し増える一時間～と題した講演会があり参加した。子育て中の保護者の方、保育士さんとか子供に関わりのある方、興味のある少し年配の方など多くの方々が参加されていた。コロナ対策として、入り口での手洗い、検温、行動管理シートの記入、あちらこちらに置かれたアルコール消毒液など、保健課主催ということでかなり徹底されているなど感じた。特に入り口での手洗いは初めての経験であったが、職員の案内でスムーズに行われていた。また、LINE 運用による情報提供も分かりやすく親しみの持てるもので、アンケート回答もラインだったので、家に帰ってからゆっくり行うことができた。ただ、どの程度回収できたかは気になるところである。

講演は一時間と短いものでしたが、内容は身近で分かりやすい話であった。特に、私が気になったのが、心理的な特徴として、3割前後の子供が、鬱になっても誰にも相談もしないとのアンケート結果があること、また、風邪薬等の市販薬への依存がみられるということで、私が児童クラブで関わっている子供でも鎮痛剤を常に持っている子がいて、小学生がこんなに市販薬を服用してもいいのかなと驚きであった。さらに、私達多くの大人は子どもの話をよく聞いているつもりでいるが、子供は聞いてもらっていないというふうに感じているところも反省点だなと思った。講師の人が、「まるっと受け止め、詳しく尋ねましょう。」という表現をされたのが素敵だなあと感じた。まずは、言い分をしっかりと聞くことの大切さを改めて感じた。これからも子供たちと関わる中で、子供たち同士ではなく大人同士であっても相手の言い分をまずはしっかりと聞くということは大切だなと改めて感じる事ができた。私も子育て中に今回のような話を聞いたら良かったと思うことであった。

「地震発生」

連休中の5月2日午後4時8分に地震が発生した。私は児童クラブでの仕事で、校庭で子供と遊んでいた時だった。携帯のアラームが鳴り、少し揺れたような気がしたが、皆あまり変わった様子はないなと思っていたら、職員室から先生が「地震ですよ。！」と大きな声で知らせてくださった。まずは、遊具等で遊んでいた子供たちを校庭の中心部に集め、一人のスタッフにその集めた子供たちを預けて、私は室内にいる子供たちの状況を見に行った。低学年の第一児童クラブにいた子供たちは、支援員を含め誰も地震に気付いていなかった。普段通り普通に遊んでいた。とりあえず、地震があったので子供たちを外へ出そうということで全員を校庭に出した。二階の部屋では、支援人が少し揺れに気付いたということで、子供た

ちをとりあえず机の下に避難させる行動を取ったとのことであった。子供たちは、「宿題が忙しいんだけど。」とか言ったらしいが、とりあえずそこまでの避難行動はしたということだった。その後、今回は地震の避難訓練にもなるからということで、揺れが収まったら、子供たちを校庭に避難させるところまでを一通り行ったが、鹿児島はそんなに大きな地震がないので、普段は揺れていてもしばらく揺れが収まるのを待っておしまい。避難訓練の時だけ、「地震だ。」と言われたら机の下に頭を隠し、揺れが収まったら建物の外に出るところまで流れとして行っているが、普段の揺れでは私たちはそこまでしていないよなどと思った。訓練はしているものの、今回のようにいざ現実地震が起きると、普段訓練でやっている行動をなかなか取れないということを改めて思い知らされた。普段から大きな地震が無いだけに気の緩みがあるのかなど、子供の命を預かる私たちとしては、すごく反省すべきことだと思った。

4月の初め頃だったが、垂水高校のあたりに猿が出たことがあった。その頃は、新1年生が昼頃に下校する時期であり、先生方が2、3日は集団下校で連れて行ってくださり、ちょうどその日から自分達で帰るようになる日に猿が出たので、学校の判断ですぐにまた集団下校に切り替えてくださった。その場その場でいざという時に的確な判断ができることが子供たちの命を守ることになるのだということを、現場でも先生方にもう一度考えてほしいと思うことだった。

「子どものSOS受け止め方講演会に参加して」

福里委員

4月24日に「子どものSOS受け止め方講演会」に中学校の研修部の立場で参加させてもらった。会場に着いたらすぐに手を洗ってくださいという感じで、コロナウイルス感染症対策も万全にされており安心して参加することができた。講演会の冊子も目的・対象・企画における注意点なども細かく書かれていて、すごくお金を掛けている冊子で丁寧だなと感じた。講師の先生の話は昨年度に息子たちは「SOSの出し方講座」で聞いていて、とてもよかったと息子から聞いていたので、私も楽しみに参加させてもらった。今回は保護者向けのSOSの受け止め方だったが、一時間の内容は、色々なケースでの子供たちへの対応の仕方ということで、具体的なことが書かれていて先生が話をしてくださった。実は私も息子の子育ての時に失敗したことがあって、あまり学校の事を話さない息子が私に話をすることがあると、心配しすぎてしまい、すぐにアドバイスをしてしまい、しっかり話を聞いていなかったみたいで、一時期、学校の話は私には全然してくれなくなったことがあった。父親には話をするみたいだったので、しばらくしてから、「どうしてお母さんには話さないの？」と聞くと、息子から、「ただ、話を聞いてほしいだけだから。」とか「お母さんは心配しすぎるから。」という返事が返ってきた。私は本当にこの子に救われたと思ったことがあった。まさしく今回の講演会で講師の先生が話された失敗例ばかりが私に当てはまるような気がした。例えば、テストが悪かった娘に対して、「あんたが、ユーチューブばかり見ているからよ。」とか普通に言ったりしていたので、やっぱり話を聞いているようで聞いていなかったんだと思う。誰かの話で、子供が話すときはただ聞いてあげてくだ

さいと言われたことがあったが、何でもアドバイスをし過ぎてしまうことがあったのだろうと思い、しっかり話を聞いてあげることが大切なんだと感じた。先生が「基本的な自尊感情の育み方は親子で一緒に学んだり、喜んだり、悔しがったり、共有体験が必要だ。」と言われたので、肝に銘じて子育てをしないといけないと思った。また、子供がSOSを出せる母親になりたいなとも思った。また、先生の言われた、「怒ってもよいですよ。怒るのが当たり前です。褒めてばかりじゃいけませんから。」の言葉が救いだった。それから、先生のおっしゃるように、しっかり子どもの話を聞いてあげて、あまりアドバイスをし過ぎず、見守っていきたいと思った。時間があつと言う間に過ぎて、とても有意義な講演会だった。本当に聞きに行つてよかったなと思った。皆行けばよかったのに。わざわざ保健課から18歳未満の子どもがいる各家庭には、ハガキが届いたりしていたが、幼稚園の保護者を見かけたのが、1人ぐらいだったので、こんなことなら私ももう少し宣伝すれば良かったと思った。本当に皆さん聞きに行かれたらよかったのにとと思うことだった。

教育長

ゴールデンウィークも終わってみれば早いものである。しかし、あまりゴールデンウィーク・ゴールデンウィークと騒いで欲しくないなと思つている。昨日は、明日から仕事だと思つと、子供みたいに所謂、「サザエさん症候群」になってしまった。しかし、朝、仕事に来てしまえば何と言うことはなく、楽しくスタートが切れているところである。私どもがやっぱり一番嬉しかったのが、事故もなく子供たちが安全に楽しく過ごせたという事を聞いたのが何よりだった。一方で懸念されるのが、先程らい教育委員の皆様からも話が出ているコロナの感染拡大である。ゴールデンウィーク明けに増えてくるのではないかというところが、昨日・一昨日の数字から見えてきているが、学校は大したものである。何とか踏ん張っている。感染者は出てはいるが、クラスターにはなっていない。きちんと感染症対策を講じながら家庭生活そして学校での生活を送っているということである。難しいなと思つている。

また、一方で休んだ子供への学びの保障は、GIGAスクールがきちんと機能して授業を子供たちに届けるということは、もう当たり前のようになされている。鹿児島市などは、件数も多くてこのような対応は全くできていないと聞いている。

連休中に色々なことがあったので少し報告したいと思う。5月1日に境地域の交流会が行われた。「おじゃつたもんせ」という名称でもう去年からずっと続けておられるが、午前中に私と川井田係長、昼からは港課長や今井課長も参加され、結果100人を超える親子が参加されたそうである。森議員さん達が中心となって、色々なものを準備されていたが、結局何が目的なのだろうと思つてしまった。地域の活性化には繋がつてはいるのであろうが、それがまた子供を呼び戻すとなると、またハードルが高くなる。根っこはそこにあるのであろうが、地域の皆さんが力を合わせてというところまではまだいっていない。つまり、地域の熱をあまり感じないというところである。5月1日の午後からは吹奏楽フェスタがあり、演奏者まで

入れて200人ぐらいの参加があり最後まで見させていただいき堪能した。3日は鹿屋方面に用事があったので、整備された新城小学校の校庭を視察してきた。気が付かれた方もいらっしゃると思うが、芝がなくなって綺麗に整地され、しかも水はけが凄くよくなっている。今、垂小のグラウンドの状態がよい。中央中の状態もよい。柘原小学校もよい。そして今度、新城小学校もよくなった。今後、また梅雨を迎えることになるが、きっともう水はけはよいと思う。新城小学校は、田んぼが校庭より上にあるので、これまで非常に水はけが悪かったが、今回、思い切って整備してよかったなと思う。連休中にも関わらず、業者の方には、連日最後の仕上げを頑張っていたいただき、申し訳ないな、有難いなと思うことだった。

5月5日は、市の体育館でフェンシングの強化合宿があった。前半戦がU20、U23、後半戦がU17。ずっと指導されていたのが和歌山県の山口コーチである。この人は面白い人で、オリンピックのフェンシングの時も解説をされた方である。このしゃべり、この声は何か聞き覚えがあると思って大菌係長に尋ねたら、「あの時のコーチですよ。」という返事が返ってきた。私も見に行行って話をしたら、もう本当に垂水が気に入りましたという話をされた。それもそのはずである。彼らが垂水に来たときには、もうそこに会場が準備してある訳ですから。国体推進課が社会教育課の手伝いをもらって準備してある訳で、合宿が終わったら、ハイ、さようならで片付けもないわけだから。片付けも教育委員会がするわけですよ。自分達はただ来るだけでよい。それと、今度の12月にまた全日本のフェンシング大会が予定されていて、山口コーチもそれを非常に楽しみにしているという話をされるのであるが、舞台上で決勝をやりたいとおっしゃる。皆さん、覚えておられますか。あの時の、ポイントを取った方に綺麗な電気がパパーと走る光景を。その装置は一式で100万円お金が掛かるらしいが、モチベーションに関わってくるそうである。決勝を舞台上でやるとなると、ベスト8、ベスト4、決勝まで死に物狂いだそうである。垂水がその舞台をやった会場だということを選手は知っているわけで、今度の全日本は、もしそれが可能となるとまた更に盛り上がりますが。でも可能じゃないんでしょう。それでも喜んで垂水に見えるでしょうけど。その頃また教育委員の皆様方も観戦できる状況ならいいなと思っている。連休にも関わらず、連日出勤されて頑張っている教育委員会の職員がいっぱいいました。有難いなと思っている。ただただ感謝の気持ちである。以上のような私の連休でございました。

先程、葛迫委員から「混沌とした時代」ということがあったが、私も確かにそうだと思う。そこで次のことを大事にしたいと思う。まず、学校教育で大事にしたいこと。これは田原委員と話が少しかぶってしまうが、こういう時だからこそ、未来だとか、夢だとか、可能性だとかそれを親子で語り合って欲しい。是非そういうことを大事にして欲しいと思っている。そしてまた、学校でもそういうことを語って欲しいと思う。そうするならば、学校が一番楽しい場になるであろうし、家庭が一番寛げる場になるんじゃないかなと思う。現在は、親子の会話、団らんの方が非常に少なくなってきた感じがする。つまり、親子ともに忙しすぎて、親子の擦れ違が多いということである。だからこそ一家団欒とか、そう言う場で是非、未来・夢・可能性を語り合って欲しいと思っている。

あと地域で大事にして欲しいと思うことがある。地域の教育力であったり、あるいは思いであったりという部分で話をすると、これは令和元年度のデータであるが、垂水市でスクールガードリーダーは72人、防犯ボランティアは58人もいらっしゃいました。この小さな市に常にそれだけの人が子供たちの安全・安心を見守ってくださっている訳である。そして、何かあればすぐに連絡を入れる。そして更にパトロールを強化してくれる。そういう温かい土地柄でもあるわけである。そして、先程、学校応援団という話もあったが、そういう学校地域教室も根付いている。田原委員も田之上委員もその一員でございますが、バスに便乗していただいたり、あいさつ運動等もしていただいたり本当に有難いなと思っている。あと、新城小学校と言え、ぱっと浮かぶのは「ふるさと先生」である。非常にいいことである。地域の伝統行事の継承が、きちんとできている。なので、地域で子供は心豊かに育っているということにまた感謝したいなと思うことである。最後にこれも葛迫委員から出ましたが、山下清と北迫正治の世界。5月6日に今村指導主事と今回が最後かなと思い見学に行ってきたが、改めてこの企画はアイデアが素晴らしいと思った。やっぱり大事なものは本物に触れる体験である。そしてまた私が先程らい気になっているのは、大人の数もさることながら、子供が何人見たかなのである。「山下清。ああ見たことある。あのおじちゃん。あのおじちゃんが描く絵はねとか。北迫正治さんて聞いたことがある。こんな花を描くんだ。いい色だな。」というような体験をしてほしいものである。しかも親子でそういう体験ができれば最高である。また是非定期的にこれを開催していただければ有難いなと思っているところである。最後に山下清画伯といえ、当時、協和小学校4年生だった野村継治氏の担任だった福德先生が図工の時間に山下清を教室に招き、子供たちの絵を見てもらったそうである。そういうことで私の報告を終わります。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

4月13日から5月9日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、5月10日から6月9日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会